

令和7年12月12日（金）

12月12日、公式代表団一行は、広沢市長一行とともに、ウンベルト1世高校を訪問した。

ウンベルト1世高校を訪問後、公式代表団一行は、広沢市長とともに、児童書画展を視察し、続いてトリノ市役所を表敬訪問した。

その後、公式代表団一行は、広沢市長とともに、食のイベント「Degustando Washoku」に参加した。

### ウンベルト1世高校（姉妹都市提携20周年記念交流行事参加）

- 時 間：12月12日（金）午前10時から午前11時30分
- 場 所：ウンベルト1世高校（トリノ市）
- 対応者：マリア・テレーザ・フルチ校長 ほか

#### （ウンベルト1世高校と本市との関係）

名古屋市では市立高校生の海外派遣事業を実施しており、その一環として、令和5年3月以降、毎年、春季休業中に、名古屋市立高校の生徒がウンベルト1世高校を訪問し、授業や校外研修に参加したり、現地の高校生との交流を行ったりしている。

ウンベルト1世高校では、マリア・テレーザ・フルチ校長の案内の下、校内の視察を行った。

視察では、多くの生徒に囲まれ歓迎を受け、生徒の活動の様子を撮影した学校を紹介するスライドを視聴し、マリア・テレーザ・フルチ校長、広沢市長、西川議長からそれぞれ挨拶があった後、生徒との交流を楽しむことができた。



ウンベルト1世高校の外観

(ウンベルト1世高校)

国立学校で、高校（5年間）には、小学校（5年間）、中学校（3年間）が併設され、6歳から19歳の生徒が在籍している。

海外留学生を多く受け入れていることもこの学校の特長である。

生徒は、高校4年生の段階で海外に留学できる可能性があり、留学先としては、ヨーロッパのみならず、カナダ、アメリカ、チリ、ニュージーランド、中国、日本などに実績がある。日本に興味を示している生徒も多いとのこと。

※ウンベルト1世は、イタリア王国第2代国王（在位1878年～1900年）

■視察の様子



18世紀のイタリアの偉大な建築家フィリッポ・ユヴァッタが設計した大階段



学校を紹介するスライドを視聴する様子



多くの生徒に囲まれ歓迎を受ける



マリア・テレザ・フルチ校長（中央）



挨拶する西川議長（左から2番目）

#### ■西川議長の挨拶（要旨）

今日は、こうして皆さんに集まっていたいただき本当にありがとうございます。先ほど市長が、日本の中で、東京、大阪、名古屋と言ったが、これは人口規模の都市力であり、私どもは、東京の次は名古屋であるとプライドを持って皆さんにお伝えしたい。

先ほど校長先生から、皆さん若い方々に視野を広めてもらいたいというお話があった。私たちは、昨日、トリノ工科大学にもお邪魔させていただいたが、トリノ工科大学は素晴らしい大学で、名古屋市立大学生の方も、今、留学してお世話になっている。先ほどのスライドの中でも、名古屋市立の高校生さんが、令和5年、6年、7年の3年間にわたって皆さんの仲間として受け入れてもらっており、ダンスや音楽には国境がないということを感じている。

私たちはイタリアに来て今日で3日目になるが、すでに文化、伝統、音楽、そして食、大変イタリアの素晴らしい伝統文化に接することができて、本当にうれしく思っている。

この学校には日本語コースがまだないという話を先ほどお聞きし、ちょっと残念だと思っている。日本には多くの若者がいるし、学校、大学もあるので、ぜひ、名古屋を目指してもらえるとうれしい。名古屋には名古屋市立大学という素晴らしい大学もあるので、ぜひ皆さんも、そちらを目指してもらえる方が一人でも多く現れるとうれしい。

今日のこの素晴らしい歓迎会に心から感謝を申し上げる。



(生徒との交流の状況)

- ・生徒から手が上がり、日本語での挨拶が披露され、名古屋市立大学に留学を希望しているとの話があった。(写真左)
- ・文学系専攻、物理系専攻、経済学専攻の代表(18歳)からそれぞれ自己紹介あった。また、会場の生徒への「将来の夢がある人は」との問いかけには、エンジニア、弁護士、欧州議会議員になりたいとの声が上がった。(写真右)



ウンベルト1世高校の先生方と一緒に



教室の廊下



寄宿生の部屋



オープンスペース



給食調理場

「dōjō」(道場)の文字が見られる。ここでは、切磋琢磨する場所というような意味が

毎日、6歳から19歳までの生徒と先生の給食(寄宿生の夕食を含む)1,400食分をここで調理しているとのこと。

## 児童書画展見学（姉妹都市提携 20 周年記念交流行事参加）

■時 間：12月12日（金）午後2時15分から午後2時30分

■場 所：統合情報センターP I U (Punto Informativo Unificato)（トリノ市）

トリノ市役所付近に位置する統合情報センターP I U（※）において、名古屋市からトリノ市に送付した小中学生の絵画が展示されている様子（児童書画展）を視察した。

（※）トリノ市の行政サービス、観光情報、イベントなどの情報提供等を行う施設。月曜日から金曜日の午前9時から午後5時まで開館している。



## トリノ市役所（トリノ市表敬訪問）

- 時 間：12月12日（金）午後2時45分から午後4時30分
- 場 所：トリノ市役所（トリノ市）
- 対応者：ステファノ・ロ・ルツソ トリノ市長、ミケーラ・ファヴァロ副市長  
ロザンナ・プルキア副市長、キアラ・フォリエッタ副市長 ほか

トリノ市役所では、名古屋市とトリノ市の姉妹都市提携20周年記念式典が開催され、西川議長、広沢議長、ステファノ・ロ・ルツソ市長からそれぞれ挨拶があり、記念品の交換を行った。

その後、ステファノ・ロ・ルツソ市長の案内の下、市役所庁舎、議場の視察を行った。



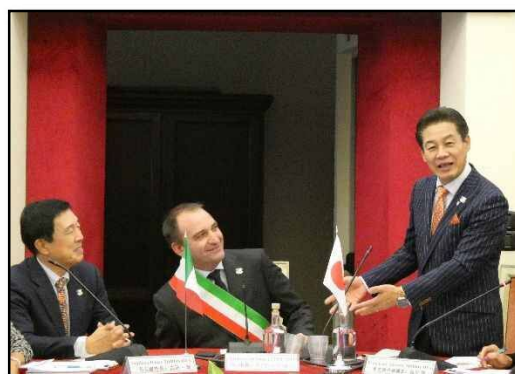
トリノ市役所の外観

### ■西川議長の挨拶（要旨）

名古屋市とトリノ市との姉妹都市提携20周年に当たり、こうして盛大に歓迎会を開催していただき、心から感謝を申し上げます。

ステファノ・ロ・ルツソ市長にこうしてお会いすることができ、大変うれしく思っている。

我々は今回トリノに来て3日目になるが、レッジョ劇場、トリノ工科大学、ウンベルト1世高校など、いろいろなところを回らせていただいた。また、イタリアの音楽、文化、伝統、様々なもの、そして食に触れさせていただき、その中で、パスタ、ピザ、そして今日はチーズリゾット、全ておいしいものを頂いた。そうした一つずつの、

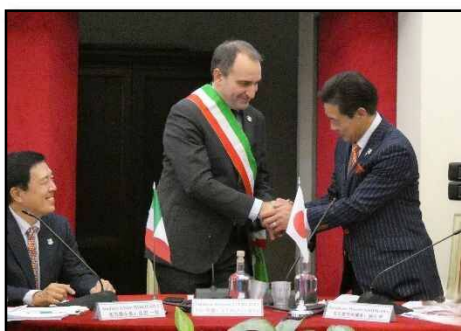


挨拶する西川議長（右側）

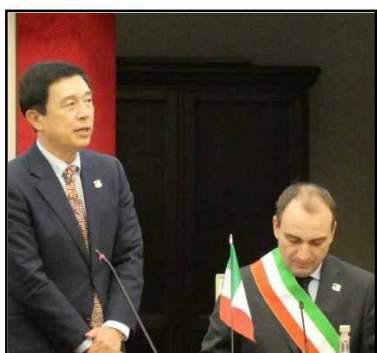
現地へ来て実際に体験をする、そしてお互いの国を知り合うということが、本当の意味での友好交流を深めることに役に立っているのではないかと思った。

先ほど訪問したウンベルト 1 世高校において、高校生の皆さんに大変盛大な歓迎会をしていただいた。本当にうれしい思いでいっぱいである。ウンベルト 1 世高校では、ここ 3 年間、毎年、名古屋市立高校の生徒を留学生として受け入れていただいております、若い人たちの交流も本当に大切だとしみじみ感じました。学生といろいろな意見交換をしている中で、来年、名古屋市立大学を目指して頑張りたいという学生にお会いすることができて本当にうれしく思っている。その学生が、来年、めでたく名古屋市立大学にご入学されることを心から願っている。

様々な若い人たちや民間の交流を通して、形だけではなく、本当の意味での交流が、姉妹都市提携 20 周年を契機として、ますます深まっていくことを心から願っている。形だけではなく、心の通う姉妹都市提携となっていくこと、それがますます育っていくことを願い、挨拶とさせていただきます。



記念式典に参列する名古屋市会代表団  
(左から3人目から丹羽議員、服部議員、木下議員)



挨拶する広沢市長



挨拶するステファノ・ロ・ルツソ市長

## ■ 広沢市長、ステファノ・ロ・ルツソ市長の挨拶（要旨）

広沢市長からは、様々なジャンルでの名古屋市とトリノ市のつながりをさらに深めていきたい、トリノ市長はじめ市の関係の皆様には、引き続きの支援と友情の深化をお願いしたいとの旨の挨拶があった。

ステファノ・ロ・ルツソ市長からは、9月に名古屋を訪問した際（※）の素晴らしいおもてなしに感激している、姉妹都市提携 20 周年と 2026 年の日伊外交関係樹立 160 周年は私たちにとって大事なイベントである、大切なことは両市における行政同士の相互理解と国際化であり、両者の交流は非常に大切である、皆様には、いつでもトリノ市に来てほしいと思っているし、私もまた、できるだけ早く再び名古屋に行きたいと思っている旨の挨拶があった。

（※）ステファノ・ロ・ルツソ市長が令和 7 年 9 月 26 日に名古屋を訪問した際には、名古屋市会議場において、名古屋市議員全員の出席の下、トリノ市長一行歓迎式を開催している。

## ■ 記念品交換の様子



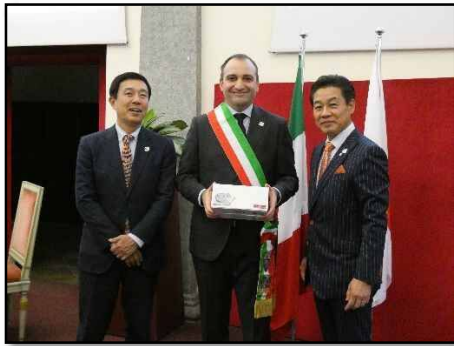
トリノ市からの記念品  
（題材はマダム宮殿）



名古屋市からの記念品  
（名古屋友禅のタペストリー）



名古屋市会からの記念品（PILOT の万年筆とインク）  
 筆記体で「City of Nagoya」と名入れされている。インクは名古屋市内の会社（昭和区のパイロットインキ株式会社）で製造されている。



名古屋市会からの記念品  
 （大久手山本屋の味噌煮込みうどん）



右から 2 番目がロザンナ・プルキア副市長で、  
 左から 2 番目がキアラ・フォリエッタ副市長

■市役所庁舎、議場を視察する様子





右から3番目がミケーラ・ファヴァロ副市長で、左から2番目が  
マリア・グラツィア・グリッポ議長

## 「Degustando Washoku」（姉妹都市提携 20 周年記念交流行事参加）

- 時 間：12月12日（金）午後6時30分から
- 場 所：Green Pea（トリノ市）
- 対応者：ミケーラ・ファヴァロ トリノ副市長 ほか

「Degustando」は、トップシェフを集め、ライブで調理を行い提供する食のイベントである。今回の「Degustando Washoku」は和食をテーマとして開催され、チケット制で料理を試食でき、ワインや日本酒も提供されたほか、名古屋市の観光PRブースが設置された。

本イベントのオープニングセレモニーでは、ミケーラ・ファヴァロ トリノ市副市長、広沢市長、西川議長からそれぞれ挨拶があり、名古屋市とトリノ市の姉妹都市提携 20 周年を記念し、名古屋を紹介する動画が放映され、鏡開きが行われた。その後、提供される和食を試食しながらイベントの視察を行った。

### ■西川議長の挨拶（要旨）

我々、名古屋市とトリノ市とは、友好をもっと深く、また強い絆で結んでいきたい、そうした思いを重ねている。私は 20 年前、トリノ市と名古屋市が姉妹都市提携を結ぶときにもこのトリノに訪れさせていただき、すばらしい思い出をたくさん持って名古屋に帰らせていただいた。そうした思いを今日また皆さんとともに共有したい。



挨拶する西川議長

今日、関係者の皆さんのお力添えで、「Degustando Washoku」をこうして盛大に開催していただき、また今日は、和食の日、姉妹都市提携を記念して名古屋の日ということで、本当に感謝申し上げます。

今日はいろんな和食があり、名古屋の誇るサガミさんには、みそかつを提供していただいている。

食べるもの、音楽、美術、これは世界各国、国境がなく、絆で結ばれるもの  
だと思っているので、今日は一日、十分に楽しんでいただきたいと思います。

本当に多くの皆様方に心から感謝をさせていただき、今日の「Degustando  
Washoku」が盛大に、皆さんに幸せが訪れること、そして、名古屋市とトリノ  
市の絆が、形だけではなく、ますますしっかりと深まることを心から願い、挨拶  
とさせていただきます。



西川議長から紹介を受ける名古屋市会代表団  
(左から丹羽議員、服部議員、木下議員)

#### ■オープニングセレモニーの様子



挨拶するミケーラ・ファヴァロ副市長



名古屋を紹介する動画



鏡開き



## ■会場の様子



正面はみそかつを提供するサガミのブース



名古屋市の観光PRブース

名古屋の魅力を紹介する動画配信や資料、姉妹都市提携20周年記念のバッジ・ファイル、えびせんべい「ゆかり」、ういろうが配布されている



ミケーラ・ファヴァロ副市長を囲んで

令和7年12月13日(土)

12月13日、公式代表団一行は、広沢市長一行とともに、エジプト博物館、トリノ市立近現代美術館を訪問した。

その後、公式代表団一行は、広沢市長とともに、日本文化紹介イベント「文化の川」に参加した。

### エジプト博物館（姉妹都市提携20周年記念交流行事参加）

- 時 間：12月13日(土) 午前10時から正午
- 場 所：エジプト博物館（トリノ市）
- 対応者：博物館学芸員

エジプト博物館は、1824年に開館した古代エジプトに特化した博物館であり、4万点以上の収蔵品数は、エジプト国外では世界最大を誇る。

エジプト博物館では、博物館学芸員による案内の下、館内の視察を行った。



エジプト博物館の外観

#### (エジプト博物館と本市との関係)

トリノ市との姉妹都市提携20周年とエジプト博物館開館200周年を記念して、令和7年1月25日、名古屋市公館において、エジプト博物館のクリスチャン・グレーコ館長による講演会が開催された。エジプト博物館とは今後、引き続きの交流が期待される。

なお、クリスチャン・グレーコ館長は世界的に高名な考古学者で、2024年にトリノ市の名誉市民となり市章を授与されている。

## ■ 視察の様子



5,000年の歴史を持つ庶民のミイラ  
砂で葬られ、自然とミイラとなったもの。  
この展示品をはじめ、博物館の展示品は全て  
本物で、レプリカは一切ない。



4,000年の歴史を持つ男性のミイラ  
麻の布で巻かれ、当時の人により、布の  
上から顔が描かれている。草履は革製。



石灰石製のファラオ（王）



紀元前3,000年頃のざる  
良好すぎる保存状態にみな驚くばかり



神殿の中で発見された彫刻の数々  
ファラオ（王）の権力を象徴している



セティ2世の像  
高さ5メートル、重さ6トン



ライオンの顔をした像  
火の神として崇められていた。  
この石はエジプト南部で採れる非常に硬  
い石で、黒くて光沢がありブロンズによ  
うで、彫刻には好まれたとのこと。



額にコブラがついたファラオ（王）の座像  
コブラはファラオ（王）を守り、それが、  
ひいては市民を守る意味を持つ。



エジプト博物館の目玉であるラムセス2世の像を背に

## トリノ市立近現代美術館（姉妹都市提携 20 周年記念交流行事参加）

- 時 間：12月13日（土）午後2時から午後3時30分
- 場 所：トリノ市立近現代美術館（トリノ市）
- 対応者：トリノ博物館財団 アンジェラ・アンナ・ベノット部長  
トリノ市立近現代美術館学芸員 ほか

トリノ市立近現代美術館（GAM : Galleria Civica d'Arte Moderna e Contemporanea di Torino）は、19世紀から20世紀の作品約45,000点を収蔵する美術館である。

トリノ市立近現代美術館では、トリノ博物館財団（Fondazione Torino Musei※）アンジェラ・アンナ・ベノット部長（対外関係・国際活動担当）から挨拶があった後、美術館学芸員による案内の下、館内の視察を行った。



トリノ市立近現代美術館（GAM）の外観

（※）トリノ市立近現代美術館、トリノ東洋博物館、パラッツォ・マダマ（市立アンティーク美術館）は、同財団に属している。

### （トリノ市立近現代美術館と本市との関係）

令和9年2月～4月、名古屋市美術館において、明治日本とヨーロッパを橋渡ししたイタリア人画家、アントニオ・フォンタネージの巡回展の開催が予定されている。

この巡回展は、日伊外交関係樹立160周年・フォンタネージ来日150周年を記念し、フォンタネージの作品を所蔵するトリノ市立近現代美術館、トリノ博物館財団の協力の下、京都、東京、名古屋の3都市で開催を予定している。

■ 視察の様子



アントニオ・カノーヴァ「世界の創造」  
(1822)



ヴェンゼル・ハブリック「星空への挑戦」  
(1909)



アントニオ・フォンタネージ「4月」(1872-1873)



反対側が透けて見える繊細な作品



## 「文化の川」(姉妹都市提携 20 周年記念交流行事参加)

- 時 間：12月13日(土)午後6時から
- 場 所：Polo Del 900 (ポーロ・デル・ノヴェチェント)(トリノ市)
- 対応者：ロザンナ・プルキア トリノ市副市長 ほか

「文化の川 (Fiumi di Culture)」は、トリノ市が推進する多文化共生と無形文化遺産の価値向上を目的としたプロジェクトである。今回参加した「結」MUSUBIー都市と文化のつながりーは、このプロジェクトの一環として、トリノ市と名古屋市の姉妹都市提携 20 周年を記念して開催された、現地日系コミュニティ(櫻協会)主催による日本文化紹介イベントである。

本イベントの来賓挨拶では、ロザンナ・プルキア副市長、ヴェラ・ノチェンティーニ文化協会 トマソ・パネロ会長、広沢市長、西川議長からそれぞれ挨拶があった。

続く講演プログラムでは、名古屋市立大学の向口武志教授によるビデオ講演をはじめ、4名の有識者により、トリノと名古屋に関する講演が行われた。

### ■西川議長の挨拶(要旨)

20年前、名古屋市とトリノ市が姉妹都市提携を結ぶときに、私はこの地に訪問させていただいている。そのときも、このトリノにお邪魔をしたときには、トリノ大聖堂をはじめとする歴史ある建物に圧倒された。すばらしい歴史、伝統、文化、音楽、芸術、食に大変感動を受けたことを昨日のように思い出している。



挨拶する西川議長

今回、私はトリノと名古屋の友好関係をしっかりとしていきたいという思いを込めて訪問している。私どもは、トリノ工科大学やウンベルト1世高校にも訪問させていただき、若い方々との交流をさせていただいた。名古屋の若い方たちとの交流をこれからもしっかりとしていきたいと思った次第である。

今日は、櫻協会の関係者の皆様のおかげで、Polo Del 900 でこうした機会を頂戴したことを本当に心から感謝する。

昨日のテーマが「縁」、そして今日が「結」、そして若い方々との交流をつなぐということが次のテーマかと思っている。そのためには、我々名古屋市会と市長と一緒に、一丸となってトリノと日本との交流をさらに深めていきたいと思う。

形だけではなく心の交流ができるよう、それを心から願わせていただき、貴重な時間を頂戴しての挨拶とさせていただく。



西川議長から紹介を受ける名古屋市会代表团  
(左から丹羽議員、服部議員、木下議員)

## ■ イベントの様子



挨拶するロザンナ・プルキア副市長



挨拶するトマソ・パネロ会長  
(ヴェラ・ノチェンティーニ文化協会)

(講演の様子)



トリノ大学 ソニア・ファヴィ准教授  
「安土桃山時代から日本統一の歴史」



トリノ国立リソルジメント博物館  
アレッサンドロ・ボッロ館長  
「イタリア統一の過程におけるトリノの役割」



航空史研究者 アウロラ・イアンネッロ氏  
「トリノの工業史」



名古屋市立大学 向口教授 (ビデオ講演)  
「名古屋の都市と産業の歴史」

(会場の様子)



講演後の軽食・交流会では、日本茶、えびせんべい「ゆかり」、ういろうが提供された